

(様式-1)

履 歴 書

ふりがな 氏名		男・女	〒	
生年月日(年齢)	(西暦) 年 月 日生 [歳]		現住所	TEL () - FAX () - E-mail
学 歴			資格(免許, 学位等)	
年月(西暦)	事 項	年月(西暦)	事 項	
職 歴 項				
年月(西暦)	事 項			
学会名及び社会における活動等				
年月(西暦)	事 項			
賞 罰				
年月(西暦)	事 項			
(西暦) 年 月 日	上記のとおり相違ありません。			印
	氏名			

<履歴書記載上の注意事項>

1. 年号
全て西暦で記載してください。
2. 学歴欄
(1) 大学学部入学以降の学歴を記入願います。
(2) 研究生等の研究歴があれば記入願います。
3. 資格欄
免許（登録番号），専門医等（登録番号）及び学位（授与大学名，学位記番号）等資格を記入願います。
4. 職歴欄
(1) 職歴（非常勤講師を除く。）は全て記載してください。
(2) 外国出張，海外研修及び研究休職等のうち，2か月以上のものについて記入願います。
（注）期間，国名，受入れ機関名及び身分（原語）等を記入願います。
5. 学会及び社会における活動等欄
(1) 所属する全ての学会名のほか，役職名（評議員等）を期間を付して記入願います。
(2) 学術雑誌の編集委員等も記入願います。
6. 賞罰欄
学会賞等の受賞について記入願います。

(様式2-1)

1. 著書

A large empty rectangular box with a black border, intended for listing books. The box is currently blank.

(様式 2-2)

2. 原著論文

A large, empty rectangular box with a thin black border, occupying most of the page below the header. It is intended for the original research paper content.

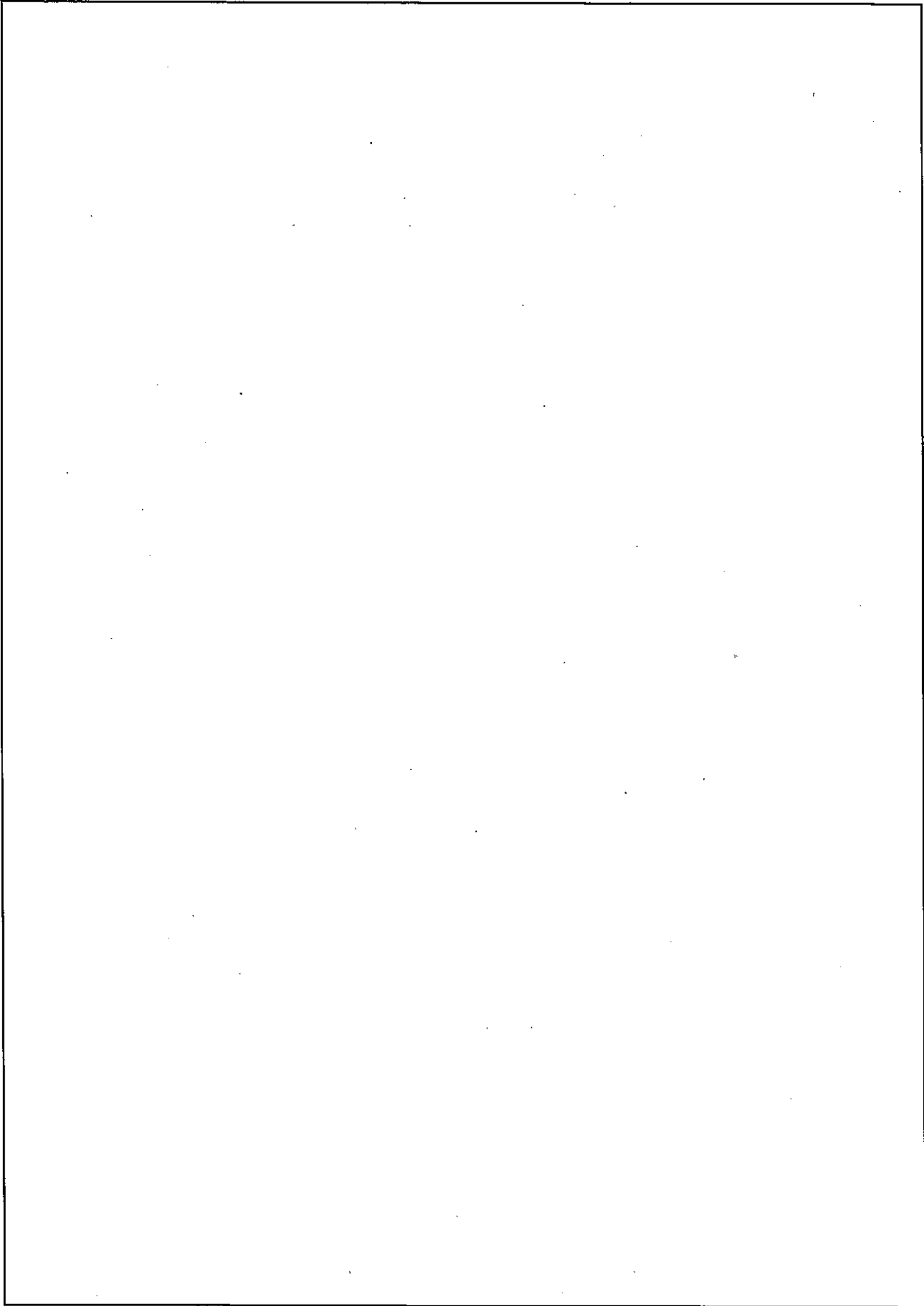
(様式 2-3)

3. 症例報告

A large, empty rectangular box with a thin black border, occupying most of the page below the section header. It is intended for the user to write the details of a case report.

(様式 2-4)

4. 総説



(様式2-5)

5. その他

A large, empty rectangular box with a thin black border, occupying most of the page below the header. It is intended for providing additional information or details related to the section '5. その他'.

(様式2-6)

6. 学会発表

--

<教育研究業績書記載上の注意事項>

1. 類別は、1. 著書、2. 原著論文、3. 症例報告、4. 総説、5. その他、6. 学会発表の順とし、各類別にはまず最初に外国語の論文を、次に日本語の論文をそれぞれ古い方から発表年（西暦）順に記入してください。
なお、類別2及び3については、査読制のあるものに限定してください。
また、プロシーディングや文部省研究報告書、翻訳書は、「5. その他」に分類してください。
整理番号は、各類別に1から記入してください。
2. 掲載予定の論文には、掲載証明書のコピーを添付してください。
3. 学会発表は、まず最初に国際学会を、次いで国内学会の順に、招へい講演、特別講演、シンポジウム（パネルディスカッションやワークショップ等の主題演題を含む。）に分けて記入してください。国内学会の一般演題については、代表的なもの10編までを記載して下さい。
4. 業績は、全員の氏名を記載順に記入し、本人の氏名にアンダーラインを引いてください。
5. 記入にあたっては、10～12Pの文字を使用するとともに、別紙記載例を参考にしてください。

(様式 2-1)

1. 著書

欧 文

1. Tateyama T, Sugitani S
Metabolism of docosahexaenoic acid in the pineal gland.
In Fatty acids metabolism in the nervous system, Malsaris W and Ma
Y-Y (Ed.), 665-684, Boston, Saunders, 2002
2. Yakushi Y, Tateyama T, and Sugitani S
Eicosapentaenoic acid and visual acuity in Japanese.
In Brain and food : 15th Keystone Conference, Mehta S and Plevin A (Ed.),
London, Academic Press. In press

和 文

1. 立山太郎、杉谷三郎
脂肪と健康
実地医家のための生化学シリーズ, 10, 日本臨床生化学会編, 山と溪流社,
富山, 2006
2. 薬師由美、立山太郎
インスリン抵抗性改善薬
治療薬テキスト98, 川端康茂編, 123-125, 北山堂, 東京, 2008

(様式2-2)

2. 原著論文

欧 文

1. Tateyama T, Tsurugi J, Yakushi Y, Zinzu K, and Dainichi M
Association between certain foods and risk of cerebrovascular accident in Japanese women.
Br Med J, 241 : 771-773, 2008
2. Tsurugi J, Tateyama T, Yakushi Y, Zinzu K, and Dainichi M
Comparison of pulse wave velocity of the aorta between inhabitants of fishing and farming villages in Japan.
Atherosclerosis, 63 : 162-170, 2011

和 文

1. 立山太郎、剣岩魚、薬師由美、鍛崎山女、神通健二、大日正
超高齢者における血清脂肪酸組成の検討
日本動脈硬化学会雑誌, 52 : 654-660, 2009
2. 薬師由美、鍛崎健二、立山太郎、神通健二、大日正
大動脈脈波伝播速度・・・農村と漁村住民との比較検討
日本内科学会雑誌, 96 : 750-758, 2010

(様式2-3)

3. 症例報告

欧 文

1. Tateyama T, Tsurugi I, Yakushi Y, and Sugitani S
Autoimmune hyperlipidemia in a patient of systemic lupus erythematosus
Am J Clin Nutr, 30 : 230-236, 2005
2. Yakushi Y, Tateyama T, Tsurugi I, Kuwasaki M, and Sugitani S
Cryptococcal pleural effusion in a patient with chronic renal failure receiving
long term corticosteroid therapy
N Engl J Med, 285 : 112-115, 2008

和 文

1. 立山太郎、剣岩魚、薬師由美、鎌崎山女、大日正
溪流釣りが原因で発症したと思われる筋挫滅症候群の一例
日本腎臓病学会雑誌, 29 : 321-326, 2007
2. 剣岩魚、立山太郎、磯野波兵、黒部五郎
ヤマメ生食が原因となった広節裂頭条虫症の一例
日本内科学会雑誌, 29 : 321-326, 2009

(様式 2-4)

4. 総説

欧 文

1. Tateyama I and Sugitani S
Cardiovascular effects of n-3 fatty acids.
lancet, 3331 : 449-457, 2002
2. Tateyama I
N-3 polyunsaturated fatty acids and cytokine production in health and
disease
Ann Nutr Metab, 45 : 203-234, 2006

和 文

1. 立山太郎
EPAの生化学
喘息, 15 : 35-40, 2005

(様式2-5)

5. その他

欧 文

1. Tateyama I

Fish and health

Proceeding of 16th annual meeting of the American Association of Fishermen and Anglers; 210-222, Baltimore, USA, 2002

・
・

和 文

1. 立山太郎、黒部五郎、西鎌尾根男、杉谷三郎

ループス肺臓炎の治療

厚生省特定疾患「全身性エリテマトーテス」研究班平成3年度報告書,
201-230, 2001

2. 立山太郎

ループス腎炎

デュポー 全身性エリテマトーテス 第4版(日本語翻訳書), 654-720,
立山書院, 東京, 2005

3. 立山太郎、黒部五郎、西鎌尾根男

DHAと心筋梗塞・不整脈

平成9年度水産資源からのDHA等の抽出精製及び生理機能の研究に関する報告書
120-145, 社団法人マリノフォーラム21, 2007

(様式2-6)

6. 学会発表

国際学会

○招聘講演

1. Tateyama I

Lyspro in sulin—a new strategy for diabetes therapy
33rd symposium of diabetes care, Bethesda, MD, USA, 2007

・
・

○特別講演

・
・

○シンポジウム

・
・

○一般演題

・
・

国内学会

○招聘講演

1. 立山太郎

インスリン作用とその異常代謝作用から増殖作用まで
第51回日本糖尿病学会年次学術集会、熊本、2008

・
・

○特別講演

・
・

○シンポジウム

・
・

○一般演題

・
・